



# 真夏の祭典に 高鳴る鼓動

真夏日となった、8月3日の夕暮れ時——。  
福智の夏を彩る「I LOVE FUKUCHI フェスタ」が幕を開けた。  
新町通り商店街は一年に一度の歩行者天国となり、通りは明かりに  
誘われるかのように福智を愛する人びとで埋め尽くされた。  
一夜限りのこの祭典は、今年もたくさんの笑顔と活気が集まり、  
暑さをも吹き飛ばすにぎわいをみせた。



大人へのワンステップ

神崎保育所

8月27日・28日



保育園の先生は、保護者が安心して子どもを預けられるように、常に子どもたちの安全に目を配り、そして、子どもたちのよいお手本となるように、言葉遣いや行動に注意していました。そのような姿を見て、「責任感」の大事さを実感しました。



↑子どもたちと同じ目線にたって接することに、注意しました。



金田中3年 山下礼華さん

寿しあら川

8月24日

今までは、出てきた料理を食べるだけで、裏方で働く人たちのことは、気にしていませんでした。料理店では、お客さんがおいしく食べられるように工夫しているだけでなく、安心や楽しさなどを届けながら仕事をしていることを知り、とても勉強になりました。



↑自分で握った巻物を、見栄えに注意しながら盛りつけました。



金田中3年 古賀大輝くん

責任感の大事さを実感



目標や夢をかなえるため、今の自分が何を身につけ、どのような道を歩むべきなのか、無限の可能性の中から志すべき方向を探った生徒たち。今回の経験が、自分の歩むべき道を模索する「きっかけ」へとつながることが期待されます。

表には出ない、裏方の大切さを学習



接客は相手の心を感じる事が大事

Interview

金田中3年 学年主任 安永隆 先生

## 段階を踏んで生徒の可能性を探る

金田中では「進路学習計画」に基づき、1年生で「職場訪問」、2年生で「高校調べ」、3年生で「職場体験」を行い、段階を踏んで自分の将来と向き合う時間を多く設けています。2日間の職場体験で、仕事や社会のことを全て理解することはできませんが、学校との違いに「気づき」、「感じる」ことで、現在の生活を見つめて卒業までの中学校生活をいかに充実して過ごせるかを考えてほしいです。今回、生徒たちに貴重な機会を与えていただいた事業所の皆さん、本当にありがとうございました。



金田郵便局

8月27日・28日

切手の販売をするときに、目標を定めて取り組みました。その中で分かったことは、お客さん相手の窓口では、「相手はどう思うのか」を考えながら接客し、礼儀や言葉遣いなどの接し方で、相手から信頼を得て、物などを販売していることです。



↑切手の販売やお客さんから預かった荷物を梱包する生徒たち。



金田中3年 竹宗大くん

